

2016 年度英米語学科後期公開講演会

# 「PAX MUNDI PER LINGUAS と難民問題 ～複眼思考と 21 世紀の世界」

<概要>

2001 年 9 月 11 日に発生したアメリカ同時多発テロが象徴するかのよう、21 世紀の世界は新たな混迷の時代に入っている。それは難民数の増加にも象徴され、国内避難民を合わせた世界の難民数は今年、第二次世界大戦後最大の 6530 万人を数えた。シリアや南スーダンでは今なお武力紛争が止まず、人々は住みなれた家を追われ、先の見えない不自由な生活を強いられている。シリア、南スーダンとそれぞれ国境を接するトルコ、ウガンダなどで難民支援に取り組む国際 NGO の視点から、難民支援のありかたや、流動化する世界で生きのびる知恵を問う。



講師： 認定 NPO 法人 AAR Japan [難民を助ける会]

理事・支援事業部長 名取 郁子 先生

滋賀県出身。京都外国語大学卒業。2006 年 7 月よりアンゴラ駐在。主に地雷対策事業を担当。英国の大学院で開発学を専攻。国連機関職員としてアンゴラで 3 年、NGO の一員として東ティモールで 2 年勤務後、難民を助ける会へ。

日時：平成 28 年 11 月 11 日（金）午後 6 時 15 分～午後 7 時 45 分

場所：京都外国語大学 7 号館 742 教室 <<事前申し込み不要 >>

問い合わせ先：英米語学科藤本研究室内 ([k\\_fujimoto@kufs.ac.jp](mailto:k_fujimoto@kufs.ac.jp))



*Kyoto University of Foreign Studies*